

平成31年度 予算と事業計画決まる

単年度収支で 赤字の予算に



収入

当健保組合の平成31年度予算と事業計画が可決・承認されましたので、そのあらましをお知らせします。



全国の健保組合は、高齢者医療制度に対して納付金を拠出して、財政的に支えています。しかし、社会の高齢化に伴い拠出額は増加傾向にあり、制度を支える側である健保組合自身が、厳しい財政状況に苦しんでいます。

当健保組合においても数年来、繰入金に頼った予算編成を続けてきました。しかし、積立金の保有額にも限りがあるため、平成30年度には健康保険料率を引き上げました（千分の82→92）。それでもなお、厳しい状況は変わらず、平成31年度予算も赤字となりました。

平成31年度の予算総額は、前年度より33万3千円少ない2億6,047万1千円です。収入の86%が事業主と被保険者のみなさんから納めていただく健康保険収入（国庫負担金含む）です。前年度より418万9千円少ない2億2,477万1千円を計上しています。

保険料だけでは必要な額を賄えないため、270万4千1百円を繰り入れて、収支を均衡させました。

支出



支出のおよそ40%は、みなさんやご家族の医療費や各種給付金に充てられる保険給付費です。前年度より123万2千円多い1億5,865千円を計上しています。

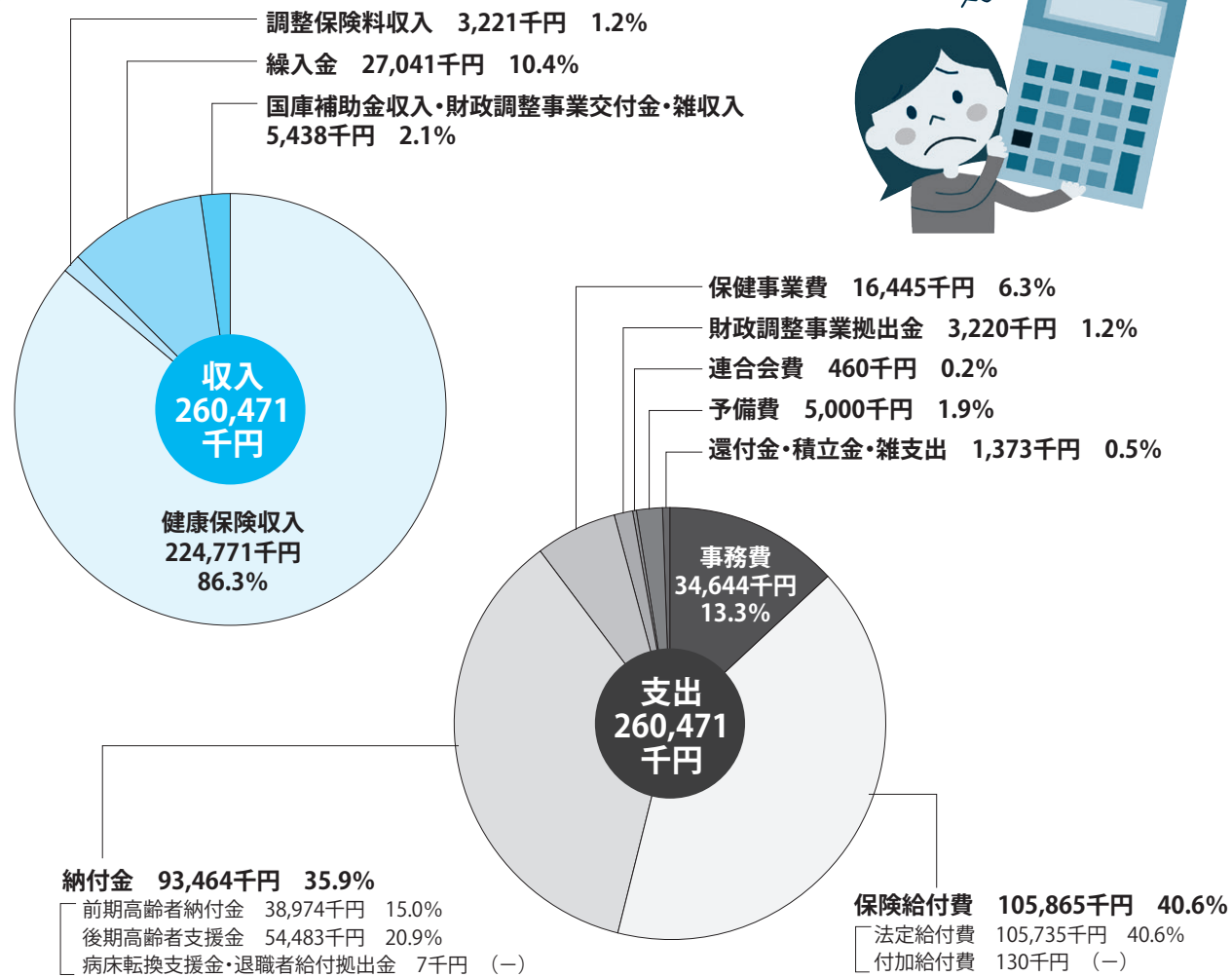
高齢者医療制度への納付金は、前年度より412万4千円少ない934万6千4千円です。若干減少したとはいえ、支出全体の35%を占めており、大きな財政的負担となっています。

厳しい財政状況ですが、みなさんの健康づくりをサポートするための事業として、保健事業費には前年度より多い164万5千円を計上しております。健診や人間ドックの補助、そして保健指導などを通して、みなさんの健康管理をサポートしてまいります。積極的に活用して、健康管理にお役立てください。

以上の結果、平成31年度は235万2千1千円の赤字予算となりました。平成30年度に健康保険料率を引き上げたにもかかわらず、これで8年連続赤字の予算編成となりました。

健康保険組合は、会社（事業主）と被保険者が保険料を出し合って、運営しています。大切な保険料を有効活用するためにも、日々の健康管理を通して病気の予防を心がけ、医療費の節減にご協力をお願いします。

収支の割合



※ 支出の合計は端数処理の影響で 100% になりません。

平成31年度

健康づくりのお手伝い

当健保組合では、みなさんの健康づくりをお手伝いしてまいります。
今年度は新たに「ベネフィットステーション」の利用補助を開始いたしますので、
ご活用ください。

保健・衛生知識の 普及のために

- ホームページの開設
- 医療費通知（3カ月ごと）
- 保健図書の配布（新人対象）

病気の予防のために

- 特定健診・人間ドック
40歳以上の被保険者・被扶養者を対象に年1回実施
- 特定保健指導
対象者に実施
- 生活習慣病健診
被保険者・被扶養者全員を対象に実施
- 福利厚生サービス
「ベネフィットステーション」の利用補助
スポーツクラブ、宿泊、育児、介護、レジャー、グルメ、ショッピングなど、幅広いサービスが受けられます。

※ 契約保養所の利用補助、家庭用常備薬の斡旋（補助）、インフルエンザ予防接種費用補助、ペブシノゲン検査（健康診断、人間ドックのオプション）は廃止いたします。